

VMware View スタートガイド

View 4.0

このガイドでは、VMware® View™ コンポーネントのインストールと仮想デスクトップのプロビジョニングの方法の概要について説明します。View の他のドキュメントは、次の Web サイトから入手できます。
http://www.vmware.com/jp/support/pubs/view_pubs.html

前提条件

View について詳しくない場合は、14 ページの「[View コンポーネント リファレンス](#)」で、これからインストールするコンポーネントの簡単な説明を参照してください。

各コンポーネントでサポートされるオペレーティングシステムなど、View Manager をインストールおよび構成するための要件に関する詳細については、『View Manager 管理ガイド』のシステム要件に関するセクションを参照してください。

View Manager をインストールするための前提条件は次のとおりです。

- View Manager の有効なライセンス キーを入手します。
View Composer または View Client with Offline Desktop を使用する場合は、使用する機能のライセンスがあることを確認してください。
- VMware vSphere™ 4 Update 1 (Update 1 が必要)、VMware Infrastructure 3.5 (Update 3 または Update 4 を推奨、Update 5 はサポート対象外)、または VMware Infrastructure 3.0.2 をインストールおよび構成します。

注意 View Composer 機能を使用するには、vSphere 4 Update 1、あるいは VMware Infrastructure 3.5 Update 3 または Update 4 が必要です。

Offline Desktop の試験的な機能を使用するには、VMware Infrastructure 3.5 Update 3 または Update 4 が必要です。vSphere 4 はサポートされていません。

ESX™ ホストと ESXi ホストの両方がサポートされています。vCenter™ が必要です。

- 標準の (View Composer リンク クローンではない) デスクトップ プールにカスタマイズ仕様を適用する場合は、vCenter Server システムに Microsoft Sysprep ツールをインストールしてください。
- View Manager は、ユーザーを認証および管理するために既存の Active Directory インフラストラクチャを利用します。次のバージョンの Active Directory がサポートされています。
 - Windows 2000 Active Directory
 - Windows 2003 Active Directory
 - Windows 2008 Active Directory

(オプション) View Composer を vCenter Server システムにインストールする

View Composer は、多くのスタンドアロン仮想マシンを作成して管理するためのさまざまな機能を提供する、ストレージ効率の高いサービスです。View Composer のリンク クローン機能を使用すると、集中管理される単一の基本イメージからすばやく複数のデスクトップ クローンを作成して展開できます。後でこのイメージが変更されても、リンク クローン プール内のすべてのデスクトップに、変更内容が自動的に伝播されます。作成したデスクトップは、親仮想マシン上のスナップショットに間接的にリンクされています。

View Composer を使用しない場合、このセクションを読む必要はありません。

View Composer は、次の 32 ビット プラットフォームでサポートされています。

- Windows Server 2003 Service Pack 2 以降
- Windows XP Professional Service Pack 2 以降

View Composer のデータを格納するには、SQL データベース サーバが vCenter Server システム上に存在するか、または vCenter Server システムから利用できる必要があります。Microsoft SQL Server、Oracle 9i、および Oracle 10g がサポートされています。View Composer は既存のデータベース サーバ（たとえば、vCenter でデフォルトで提供された Microsoft SQL Server 2005 Express インスタンス）を使用できます。vCenter と同じ SQL Server インスタンスにインストールする場合は、vCenter のデータベースを上書きしないように注意してください。データベースの詳細な要件については、『View Manager 管理ガイド』のシステム要件に関するセクションを参照してください。

View Composer を使用するには、View Composer サービス (`VMware-viewcomposer-xxxxxx.exe`、`xxxxxx` はファイルのビルド番号) を vCenter Server システムにインストールして、リンク クローンのストレージに専用のデータ ソースを使用するように構成する必要があります。View Composer のインストールとデータベースの構成の詳細については、『View Manager 管理ガイド』の View Composer に関する章を参照してください。

View Connection Server を専用サーバにインストールする

View Connection Server はクライアント接続のブローカーとして機能し、受信したりリモート デスクトップ ユーザーの要求を、認証したり、適切な仮想デスクトップ、物理デスクトップ、またはターミナルサーバにダイレクトしたりします。

View Connection Server は、32 ビットまたは 64 ビットの専用の物理サーバまたは仮想サーバで実行する必要があります。View Connection Server のハードウェア、オペレーティング システム、および Active Directory の要件に関する詳細については、『View Manager 管理ガイド』のシステム要件に関するセクションを参照してください。

標準サーバの展開により、単一のスタンドアロン View Connection Server が作成されます。このサーバは、後で、複製された View Connection Server グループ内の最初のサーバ インスタンスにすることができます。以前の View Manager リリースのレプリカとして View Manager を実行しないでください。

標準サーバをインストールするには

- 1 View Connection Server をホストするシステムで、次の実行可能ファイルを実行します。`xxxxxx` は、ファイルのビルド番号です。

`VMware-viewconnectionserver-xxxxxx.exe`

- 2 VMware インストール ウィザードが表示されたら、[Next (次へ)] をクリックします。
- 3 VMware のライセンス条件に同意して、[Next (次へ)] をクリックします。
- 4 インストール先フォルダを受け入れるか、変更して、[Next (次へ)] をクリックします。
- 5 [Standard (標準)] 展開オプションを選択して、[Next (次へ)] をクリックします。
- 6 [Install (インストール)] をクリックします。
- 7 [Finish (完了)] をクリックします。

View Administrator で初期構成を実行する

View Manager の Web ベースの管理コンポーネントである View Administrator を使用して、View Connection Server の構成を行います。View Administrator のオペレーティング システムおよび Web ブラウザの要件に関する詳細については、『View Manager 管理ガイド』のシステム要件に関するセクションを参照してください。

View Administrator にログインする

View Connection Server をインストールした後、初期構成作業を行うには View Administrator にログインします。

View Administrator にログインするには

- 1 Internet Explorer 7 または 8、あるいは Firefox 3.0 または 3.5 を使用し、次の URL を入力します。
<server> は、View Connection Server インスタンスのホスト名または IP アドレスです。

https://<server>/admin

View Administrator には、セキュリティで保護された (SSL) 接続を介してアクセスします。最初に接続したときに、アドレスに関連付けられているセキュリティ証明書が、信頼された証明機関から発行されていないことを警告する中間ページが表示される場合があります。View Connection Server で提供されるデフォルトのルート証明書が自己署名であるため、この応答は予期される動作です。

- 2 [Ignore (無視)] をクリックし、現在の SSL 証明書を使用して続行します。
- 3 適切な認証情報を使用してログインします。

最初は、View Connection Server システムのローカル管理者グループのメンバーであるドメイン ユーザー全員が、View Administrator へのログインを許可されています。後で、View Administrator を使用して ([Configuration (構成)] - [Administrators (管理者)])、View Manager 管理者のリストを変更できます。

ライセンス キーをインストールする

View Administrator に初めてログインすると、[Configuration (構成)] ビューが表示されます。

[Configuration (構成)] ビューが表示されない場合は、ウィンドウの上部にある [Configuration (構成)] ボタンをクリックします。

ライセンス キーをインストールした後は、ログインすると [Desktop (デスクトップ)] ビューが表示されます。

ライセンス キーをインストールするには

- 1 [Configuration (構成)] タブで、左ナビゲーション ペインの [Product Licensing and Usage (製品のライセンスと使用状況)] をクリックします。
- 2 [Product Licensing (製品のライセンス)] 表で [Edit License (ライセンスの編集)] をクリックし、View Manager のライセンス キーを入力します。
- 3 [OK] をクリックします。
- 4 表示されるライセンスの有効期限の日付を確認します。

vCenter Server を追加する

ライセンス キーをインストールした後、View Manager で使用するよう vCenter Server を構成する必要があります。

View Administrator で vCenter Server エントリを追加するには

- 1 [Configuration (構成)] タブで、左ナビゲーション ペインの [Servers (サーバ)] をクリックします。
- 2 [VirtualCenter Servers (VirtualCenter サーバ)] で、[Add (追加)] をクリックし、vCenter Server の情報を入力します。
 - a View Manager で通信する vCenter Server の完全修飾ドメイン名 (FQDN) または IP アドレスを、[Server address (サーバアドレス)] テキスト ボックスに入力します。
FQDN にはホスト名とドメイン名が含まれます。たとえば、**myserverhost.companydomain.com** という FQDN では、**myserverhost** がホスト名であり、**companydomain.com** がドメインです。
 - b [User name (ユーザー名)] テキスト ボックスに管理ユーザーの名前を入力します。
View Manager で vCenter を使用するには、管理ユーザーが、vCenter で特定の操作を実行するための権限を持っている必要があります。これらの権限は、vCenter から、vCenter ロールを作成し、View Manager ユーザーに割り当てることで付与されます。vCenter の管理ユーザーは、デフォルトですべての必要な権限が有効になっています。
 - c [Password (パスワード)] テキスト ボックスに、管理ユーザーに対応するパスワードを入力します。
 - d (オプション) [Description (説明)] テキスト ボックスにこの vCenter Server の説明を入力します。
 - e 安全なチャネル (SSL) を使用して vCenter Server に接続する場合は、[Connect using SSL (SSL を使用して接続)] が選択されていることを確認します。これがデフォルト設定です。
 - f [Port (ポート)] テキスト ボックスに TCP ポート番号を入力します。
デフォルトは 443 です。

View Composer を使用していない場合は、[手順 8](#)に進みます。

- 3 [Check for View Composer Compatibility (View Composer の互換性を調べる)] をクリックして、vCenter Server システムで View Composer サービスが実行されていることを確認します。
問題がない場合は、[View Composer Settings (View Composer の設定)] プロパティ グループが表示されます。
- 4 [Enable View Composer (View Composer の有効化)] がオンになっていること、およびポート番号が vCenter Server システムで View Composer サービスをインストールしたときに指定したポートと同じであることを確認します。
- 5 [Add (追加)] をクリックし、[Add QuickPrep Domain (QuickPrep ドメインの追加)] ダイアログ ボックスで必要な情報を入力します。
Active Directory ドメインの FQDN (**domain.com** など)、FQDN を含むユーザー名 (**domain.com¥admin** など)、および指定したユーザーのパスワードを入力します。
提供する認証情報は、指定した Active Directory コンテナのコンピュータ オブジェクトを追加および削除する権限を持つドメイン アカウント (Active Directory 管理者が作成したドメイン アカウント) を表している必要があります。View Composer は、追加したドメインと関連するユーザー認証情報を使用して、リンク クローンをドメインに参加させます。
- 6 [Add (追加)] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。
View Composer ユーザーが [QuickPrep domains (QuickPrep ドメイン)] リストに追加されます。
- 8 [OK] をクリックして、vCenter Server 設定ダイアログ ボックスを閉じます。

(オプション) View Connection Server の外部 URL を構成する

外部 URL は、View Client が接続を確立できるように、View Connection Server (またはセキュリティ サーバ) が View Client に返す URL です。クライアント システムから解決できる代替の DNS 名または IP アドレスを提供するため、外部 URL の設定が必要になる場合があります。

標準サーバまたはレプリカ サーバで外部 URL を設定するには

- 1 [Configuration (構成)] タブで、左ナビゲーション ペインの [Servers (サーバ)] をクリックします。
- 2 [View Servers (View サーバ)] で、[View Connection Server] エントリを選択して [Edit (編集)] をクリックします。
- 3 [External URL (外部 URL)] フィールドに URL を入力します。
 プロトコル、アドレス、およびポート番号を含める必要があります。例：
https://view.example.com:443
- 4 [OK] をクリックします。

仮想マシンの展開のための準備

vCenter で作成する仮想マシンが、仮想デスクトップの展開の基本になります。

ゲスト システムの構成

仮想マシンのゲスト オペレーティング システムを展開するための準備には、特定のインストールおよび構成作業を実行する必要があります。

ゲスト オペレーティング システムを準備するには

- 1 ゲスト オペレーティング システムと、必要なアプリケーションおよびドライバをインストールします。
 ゲスト オペレーティング システムとして Windows XP をインストールする場合は、次の場所にある『[Windows XP Deployment Guide](http://www.vmware.com/files/pdf/resources/vmware-view-xp-deployment-guide.pdf)』で、追加の指示とガイドラインを確認してください。
<http://www.vmware.com/files/pdf/resources/vmware-view-xp-deployment-guide.pdf>
 - VMware vSphere で提供される最新バージョンの VMware Tools をインストールします。
 - Microsoft のサービス パックと Windows 更新プログラムをインストールします。
 - ウイルス対策ソフトウェアをインストールします。
 - 他のアプリケーションをインストールします。たとえば、MMR を使用する場合は Windows Media Player をインストールします。
 - 必要なスマート カードのドライバをインストールします。
- 2 ネットワーク プロキシの設定を構成します。
- 3 Active Directory の設定を構成します。
 - a 適切な Active Directory サーバアドレスを使用するように、優先および代替 DNS サーバを構成します。
 たとえば、Windows XP では、プロパティ メニューから DNS サーバの設定を構成します。
 [Start (スタート)] - [Control Panel (コントロール パネル)] - [Network Connections (ネットワーク 接続)] - [LAN (ローカル エリア 接続)] - [Properties (プロパティ)] - [Internet Protocol (TCP/IP) (インターネット プロトコル (TCP/IP))] - [Properties (プロパティ)] - [Use the following DNS server addresses (次の DNS サーバーのアドレスを使う)]
 - b ゲスト システムを適切な Active Directory ドメインに参加させます。
- 4 ゲスト システムに複数の仮想 NIC がある場合は、View Agent が使用するサブネットを設定する必要があります。詳細については、『View Manager 管理ガイド』を参照してください。

- 5 リモート デスクトップ接続を許可するようにファイアウォールを構成します。
- 6 ゲスト システムに対する管理者権限があることを確認します。
- 7 (オプション) ユーザー カスタマイズ スクリプトを構成します。
- 8 (オプション) 『[Windows XP Deployment Guide](#)』で説明されているパフォーマンス最適化ガイドラインに従います。

ゲスト システムに View Agent をインストールする

View Connection Server が仮想デスクトップと通信できるようにするには、ゲスト システムに View Agent をインストールする必要があります。

View Agent をインストールするには

- 1 ゲスト システムで、次の実行可能ファイルを実行します。xxxxxx は、ファイルのビルド番号です。

`VMware-viewagent-xxxxxx.exe`

- 2 VMware インストール ウィザードが表示されたら、[Next (次へ)] をクリックします。
- 3 VMware のライセンス条件に同意して、[Next (次へ)] をクリックします。
- 4 カスタム セットアップのオプションを選択します。

View Composer リンク クローン デスクトップを展開する場合は、**View Composer Agent** をインストールする必要があります。

次の機能コンポーネントを選択または選択解除できます。

- ユーザーがラップトップなどのローカル コンピュータ上で使用するために仮想デスクトップのコピーを View Connection Server からダウンロードすることを許可する場合は、**Offline Desktop** コンポーネントをインストールします。

Offline Desktop は試験的な機能です。Offline Desktop は vSphere 4 ではサポートされていません。

- 仮想デスクトップ ユーザーがローカルに接続されている USB デバイスに、自身の仮想デスクトップを使ってアクセスする必要がある場合は、**USB リダイレクト** コンポーネントをインストールします。

Windows 2000 は USB リダイレクトをサポートしていません。

- シングル サインオン (SSO) を有効にする場合は、**View Secure Authentication** コンポーネントをインストールします。

SSO を有効にすると、View Client にログインしたユーザーは仮想デスクトップにログインするために認証情報を再度入力する必要がなくなります。

- 最初に仮想デスクトップに追加のドライバをインストールしなくてもユーザーがクライアント システムで利用できるプリンタに出力できるようにする場合は、**Virtual Printing** コンポーネントをインストールします。
- ユーザーが PCoIP 表示プロトコルを使用して接続することを許可する場合は、**PCoIP Server** コンポーネントをインストールします。PCoIP は、LAN または WAN 上のさまざまなユーザーに、画像、オーディオ、およびビデオ コンテンツの配信に関して最高の PC 体験を提供します。

注意 Windows Vista では、**PCoIP Server** コンポーネントをインストールすると、Windows グループ ポリシー [Disable or enable software Secure Attention Sequence (ソフトウェアの Secure Attention Sequence を無効または有効にする)] が有効になり、[**Services and Ease of Access applications (サービスとコンピュータの簡単操作アプリケーション)**] に設定されます。この設定を変更すると、シングル サインオンが正常に機能しなくなります。

- 5 インストール先フォルダを受け入れるか、変更して、[Next (次へ)] をクリックします。
- 6 [Install (インストール)] をクリックしてインストール プロセスを開始します。
- 7 プロセスが完了したら、[Finish (完了)] をクリックします。

(オプション) 仮想マシン カスタマイズ仕様を作成する

カスタマイズ仕様を使用すると、ライセンス情報、ドメインへの関連付け、DHCP 設定などの一般的なプロパティの構成情報を入力することによって、自動デスクトッププールの展開を効率化できます。

View Composer リンク クローン仮想デスクトップでは、カスタマイズ仕様は使用されません。この展開オプションについては、10 ページの「(オプション) View Composer 仮想デスクトッププールを展開する」で説明します。

カスタマイズ仕様を作成するには

- 1 vCenter で、[Edit (編集)] - [Customization Specifications (カスタマイズ仕様)] をクリックします。
- 2 新しいカスタマイズ仕様を作成するときは、[New (新規)] をクリックします。
- 3 [Target Virtual Machine OS (ターゲット仮想マシン OS)] ドロップダウン メニューで [Windows] が選択されていることを確認してから、カスタマイズ仕様の名前と、必要に応じて説明を入力し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 4 自動デスクトッププールに作成するデスクトップと関連付ける [Name (名前)] および [Organization (組織)] を入力し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 5 次のいずれかのオプションを選択して、[Next (次へ)] をクリックします。
 - [Use the virtual machine name (仮想マシン名を使用)] View Manager から展開するときに各デスクトップ仮想マシンに割り当てた名前を基にして、プール内のデスクトップの名前を付ける場合。このオプションをお勧めします。
 - [Use a specific name (特定の名前を使用)] 定義済みラベルを基にしてプール内のデスクトップの名前を付ける場合。このオプションを選択する場合は、[Append a numeric value to ensure uniqueness (一意にするために数値を追加)] も選択します。
- 6 仮想デスクトップオペレーティングシステムのライセンス番号を [Product ID (製品 ID)] フィールドに入力し、単一ライセンスか複数シート ライセンスかを指定して、[Next (次へ)] をクリックします。
- 7 ローカル管理者パスワードを入力および確認入力し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 8 ドロップダウンメニューから地域のタイムゾーンを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 9 (オプション) ユーザーが初めて接続したときに実行する 1 つまたは複数のコマンド プロンプト命令を入力します。
 - a 所定のフィールドにコマンドを入力して [Add (追加)] をクリックします。
 - b コマンドごとにこれを繰り返し、終了したら [Next (次へ)] をクリックします。
- 10 ネットワーク インターフェイスの設定を選択して、[Next (次へ)] をクリックします。
[Typical settings (標準設定)] を選択することをお勧めします。
- 11 このテンプレートに基づいて作成したデスクトップがどのようにネットワークに参加するかを指定します。
展開したデスクトップをドメインに自動的に追加する場合は、[Windows Server Domain (Windows サーバドメイン)] を選択し、ドメイン名を入力します。ユーザー名、パスワード、およびパスワード確認フィールドには、システムをこのドメインに追加するために必要な権限を持つユーザーの認証情報を入力します。
- 12 [Generate New Security ID (SID) (新しいセキュリティ ID (SID) の生成)] が選択されていることを確認し、[Next (次へ)] をクリックします。
[Ready to Complete (完了の確認)] ページが表示されます。
[Back (戻る)] をクリックすれば、前のページを変更できます。
- 13 [Finish (完了)] をクリックして、ゲストのカスタマイズ仕様を保存します。

カスタマイズが完了するまでに数分かかる場合があります。完了したら、新しい仮想マシンが Active Directory ドメインに参加していることを確認します。

以上の作業が済むと、仮想デスクトップをプロビジョニングするときに、View Manager の自動デスクトッププールにゲスト カスタマイズ仕様を割り当てることができるようになります。

標準仮想デスクトップ用の仮想マシン テンプレートを作成する

ゲストシステムをインストールして構成した後、仮想マシンをテンプレートに変換します。それが済むと、テンプレートを自動デスクトップ プールのデスクトップソースとして使用できます。

View Composer のリンク クローン仮想デスクトップは、仮想マシン テンプレートではなくスナップショットを基本イメージとして使用します。この展開オプションについては、10 ページの「[\(オプション\) View Composer 仮想デスクトップ プールを展開する](#)」で説明します。

vCenter で仮想マシン テンプレートを作成するには

- 1 仮想マシンをパワーオフします。
- 2 構成済みのゲスト システムを右クリックして、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **テンプレートに複製** 仮想マシン自体を変更せずに、選択したゲスト システムに基づいて新しいテンプレートを作成する場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択する場合は、テンプレートの名前、テンプレートを配置する環境の情報、使用するディスク フォーマットを入力するセットアップウィザードが表示されます。
 - **テンプレートに変換** ゲスト システムをテンプレートに変更する場合は、このオプションを選択します。このプロセスはすぐに終わります。

仮想デスクトップまたはデスクトップ プールを展開する

View Manager では、デスクトップの作成、資格付与、配布、使用を柔軟に行うことができます。View Manager は次のデスクトップ配布モデルをサポートします。

- [Individual Desktop (個別デスクトップ)] 既存のバックエンドソースを1つだけ許可するデスクトップです。
- [Manual Pool (手動プール)] 自動的にプロビジョニングされないデスクトップソースのプールです。複数のユーザーが複数のデスクトップにマッピングされます。ただし、1つのデスクトップ上でアクティブになるのは一度に1ユーザーだけです。
- [Automated Pool (自動プール)] 1つまたは複数の動的に生成されたデスクトップで構成されるプールです。デスクトップは、View Manager によって vCenter 仮想マシン テンプレートから自動的に作成およびカスタマイズされます。
- [Terminal Server Pool (ターミナル サーバプール)] 1つまたは複数のターミナル サーバから提供される、ターミナル サーバデスクトップソースのプールです。ターミナル サーバデスクトップソースから複数のデスクトップを配布できます。

ここでは、自動デスクトップ プールの展開方法について説明します。自動デスクトップ プールは、1つまたは複数の動的に生成されたデスクトップで構成され、デスクトップは View Manager によって vCenter 仮想マシン テンプレートから自動的に作成およびカスタマイズされます。

リンク クローン デスクトップ プールを展開する場合は、10 ページの「[\(オプション\) View Composer 仮想デスクトップ プールを展開する](#)」を参照してください。

他のタイプのデスクトップを作成する場合の要件と方法については、『View Manager 管理ガイド』の展開に関する章を参照してください。

自動デスクトップ プールを展開するには

- 1 View Administrator で、[Desktops and Pools (デスクトップとプール)] をクリックし、[Inventory (インベントリ)] タブをクリックします。
- 2 [Global desktop and pool view (デスクトップとプールのグローバルビュー)] ペインで、[Desktops and Pools (デスクトップとプール)] タブが選択されていることを確認してから [Add (追加)] をクリックします。
- 3 デスクトップの追加ウィザードが表示されたら、[Automated Desktop Pool (自動デスクトップ プール)] を選択して [Next (次へ)] をクリックします。

- 4 作成するデスクトップ プールのタイプを選択して [Next (次へ)] をクリックします。
 - [Persistent (通常)] ユーザーがログインするたびに常に同じシステムに接続されるように、デスクトップは静的に割り当てられます。デスクトップの割り当ては、各ユーザーが初めて接続したときに行われます。
 - [Non-persistent (読み取り専用)] デスクトップは、ユーザーがログインするときに動的に割り当てられ、ユーザーが接続を解除するとプールに戻ります。
- 5 表示されるリストからこのデスクトップで使用する vCenter Server を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 6 [Unique ID (一意の ID)]、[Display name (表示名)] (オプション)、および [Description (説明)] (オプション) を入力し、[Next (次へ)] をクリックします。

一意の ID は デスクトップ プールの指定に View Manager で使用され、ログインしたときにユーザーが認識する名前です。一意の ID と表示名は任意に設定できますが、表示名を指定しないと、両方に一意の ID が使用されます。
- 7 デスクトップ プロパティを構成して、[Next (次へ)] をクリックします。

Windows Vista の仮想マシンを使用する場合は、電源ポリシーを [Ensure VM is always powered on (仮想マシンは常にパワーオン)] に設定する必要があります。
- 8 デスクトップ プロビジョニングのプロパティを構成して、[Next (次へ)] をクリックします。
- 9 展開の基本イメージとして使用するテンプレートを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。

表示されるテンプレートは、View Manager でサポートされるデスクトップオペレーティングシステムが含まれるものだけです。
- 10 vCenter 内でこのデスクトップ プールを配置するフォルダを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 11 このデスクトップが使用する仮想マシンを実行するホストまたはクラスタを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 12 このデスクトップが使用する仮想マシンを実行するリソース プールを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 13 デスクトップ プールを格納するデータストアを 1 つ以上選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 14 次のオプションから、ゲスト システムから作成したデスクトップをカスタマイズする方法を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
 - vCenter カスタマイズ仕様がある場合は、[Use this customization specification (このカスタマイズ仕様を使用)] リストから選択してライセンス情報、ドメインへの関連付け、DHCP 設定などのプロパティを事前に構成できます。
 - プロビジョニングされた後に、プール内のデスクトップを手動で構成する場合 (カスタマイズ仕様を検出されない場合) は、[None (なし)] - [Customization will be done manually (カスタマイズを手動で行う)] を選択します。
 - 仮想マシンの電源をオフのままにする場合は、[Do not power on virtual machines after creation (作成後に仮想マシンの電源をオンにしない)] を選択します。
- 15 (オプション) この展開の構成設定の概要が表示されたら、[Back (戻る)] をクリックして前のページを変更できます。
- 16 [Finish (完了)] をクリックして自動デスクトップ プールを展開します。

展開が開始された後、[Global desktop and pool view (デスクトップとプールのグローバルビュー)] ペインの [Desktops and Pools (デスクトップとプール)] または [Desktop Sources (デスクトップソース)] タブで、自動デスクトップ プールの進捗状況を監視できます。

展開が完了した後、12 ページの「[ユーザーおよびグループにデスクトップとデスクトップ プールに対する資格を付与する](#)」で説明されているように、ユーザーまたはグループにデスクトップ プールを使用する資格を付与します。

(オプション) View Composer 仮想デスクトップ プールを展開する

4 ページの「[vCenter Server を追加する](#)」で説明されているように、View Composer 用に vCenter Server を構成したことを確認します。新しいリンク クローン デスクトップ プールを作成する前に、View Manager と vCenter が通信できること、および View Composer サービスが開始していることを確認する必要があります。接続が確立された後、新しい View Composer リンク クローン デスクトップ プールを展開できます。

View Composer を使用すると、リンク クローンは、親仮想マシンと呼ばれる、中央で管理される基本イメージから作成されます。ゲスト システムを作成して View Agent をインストールした後、スナップショットを作成する必要があります。スナップショットを作成する前に親仮想マシンを完全にシャットダウンする必要があります。このスナップショットは、親仮想マシンに関連付けられた最初のリンク クローン デスクトップセットにとって、基本状態の構成となります。

展開プロセスの間、親仮想マシンを静的な状態にする必要があります。

View Composer の展開の詳細については、『View Manager 管理ガイド』の View Composer に関する章を参照してください。

リンク クローン デスクトップ プールを展開するには

- View Administrator で、[Desktops and Pools (デスクトップとプール)] をクリックし、[Inventory (インベントリ)] タブをクリックします。
- [Global desktop and pool view (デスクトップとプールのグローバルビュー)] ペインで、[Desktops and Pools (デスクトップとプール)] タブが選択されていることを確認してから [Add (追加)] をクリックします。
- デスクトップの追加ウィザードが表示されたら、[Automated Desktop Pool (自動デスクトップ プール)] を選択して [Next (次へ)] をクリックします。
- 作成するデスクトップ プールのタイプを選択して [Next (次へ)] をクリックします。
 - [Persistent (通常)] ユーザーがログインするたびに常に同じシステムに接続されるように、デスクトップは静的に割り当てられます。デスクトップの割り当ては、各ユーザーが初めて接続したときに行われます。
 - [Non-persistent (読み取り専用)] デスクトップは、ユーザーがログインするときに動的に割り当てられ、ユーザーが接続を解除するとプールに戻ります。
- 表示されるリストからこのデスクトップで使用する vCenter Server を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- [Use linked clone technology to create desktops in this pool (リンク クローン機能を使用してこのプールにデスクトップを作成する)] が選択されていることを確認し、[Next (次へ)] をクリックします。
- [Unique ID (一意の ID)]、[Display name (表示名)] (オプション)、および [Description (説明)] (オプション) を入力し、[Next (次へ)] をクリックします。
一意の ID は デスクトップ プールの指定に View Manager で使用され、ログインしたときにユーザーが認識する名前です。一意の ID と表示名は任意に設定できますが、表示名を指定しないと、両方に一意の ID が使用されます。
- デスクトップ プロパティを構成して、[Next (次へ)] をクリックします。
親仮想マシンとして Windows Vista を使用する場合は、電源ポリシーを [Ensure VM is always powered on (仮想マシンは常にパワーオン)] に設定する必要があります。
- デスクトップ プロビジョニングのプロパティを構成して、[Next (次へ)] をクリックします。
- 展開の基本イメージとして使用する親仮想マシンを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
仮想マシンのうち、1 つ以上のスナップショット (仮想マシンがパワーオフのときに作成) を持つ仮想マシンだけが表示されます。
- 親仮想マシン上でスナップショット (非アクティブ状態のときに作成) を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。

- 12 vCenter 内でこのデスクトップ プールを配置するフォルダを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 13 このデスクトップが使用する仮想マシンを実行するホストまたはクラスタを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- [Use vSphere mode for View Composer (View Composer に vSphere モードを使用)] チェック ボックスは、ESX/ESXi 4 ホストのみを含むクラスタを選択した場合に選択可能になります。新しい vSphere モードは以前のリリースより信頼性が高く、最新のハードウェア構成をサポートしますが、vSphere 4 には 64 ビット (x86_64) ハードウェアが必要です。クラスタに ESX/ESXi 3.5 ホストを含める予定の場合は、このチェック ボックスを選択しないでください。
- 14 このデスクトップが使用する仮想マシンを実行するリソース プールを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 15 (オプション) デスクトップによるユーザー データの格納方法を構成し (通常プールの場合のみ)、[Next (次へ)] をクリックします。
- 更新または再構成イベント後にユーザー データを残しておく場合は、[Redirect user profile to a separate disk (ユーザー プロファイルを別のディスクにリダイレクト)] を選択し、ユーザー データ ディスクの最大サイズと関連付けるドライブを指定します。
- 複数のデータストアを使用する場合は、[Use different datastores for user data disks and OS disks (ユーザー データ ディスクと OS ディスクで別のデータストアを使用する)] を選択できます。その場合は、[手順 16](#) のデータストア選択時に、どのタイプのデータにどのデータストアを使用するかを選択できます。
- 親仮想マシン上の既存のドライブに対応する文字は選択しないでください。
- 更新または再構成イベント後にユーザー データを残さない場合は、[Store user profile on the same disk as the OS (ユーザー プロファイルを OS と同じディスクに格納)] を選択します。これらのイベントを管理者が実行するか、またはポリシーに基づいて自動的に実行されると、ユーザー データはなくなります。
- 16 デスクトップ プールを格納するデータストアを 1 つ以上選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 通常のプールを作成する場合、[手順 15](#) で [Use different datastores for user data disks and OS disks (ユーザー データ ディスクと OS ディスクで別のデータストアを使用する)] を選択したときは、[Use For (使用目的)] 列の下向き矢印をクリックして、対応するデータストアのストレージ領域の使用方法を指定できます。[OS Data (OS データ)] または [User Data (ユーザー データ)] を選択できます。
- 続行するには、オペレーティング システム データとユーザー データの両方に十分な領域を割り当てる必要があります。
- [Storage Overcommit (ストレージ オーバーコミット)] 列エントリでは、新しい仮想マシンをデータストア上で使用できる空き領域にどのように割り当てるかを設定します。レベルを高くすると、個々の仮想マシンの増大に確保される領域は小さくなりますが、データストアに割り当てられる仮想マシン数は増加します。各データストアのオーバーコミット レベルを変更するには、エントリをクリックします。
 - [Min Recommended (できるだけ少なく)]、[Storage at 50% provision (ストレージに 50% をプロビジョニング)]、および [Storage at 100% provision (ストレージに 100% をプロビジョニング)] 値のみがガイドラインとして用意されています。プールの実際の要件は、クライアント使用パターン、アプリケーションワークロード、プールタイプなどによって異なります。
- 利用できる十分な空き領域がない場合は、追加のデータストアを選択して空き領域を追加する必要があります。
- クラスタの場合は、共有データストアだけがサポートされます。クラスタ内のすべてのホストは、データストアに接続しないと表示されません。

- 17 リンク クローン デスクトップがドメインに参加するには、そのドメインのドメイン管理者認証情報が必要です。認証情報を入力して、[Next (次へ)] をクリックします。
 - [QuickPrep domain (QuickPrep ドメイン)] ドロップダウンメニューからドメイン名とユーザー名のエントリを選択します。
この認証情報の指定は、4 ページの「[vCenter Server を追加する](#)」の手順で vCenter Server 設定を追加または編集するときに行います。これらの設定は View Composer では検証されません。
 - デスクトップがパワーオフされる前にスクリプトを実行する場合は、親仮想マシン上のスクリプトのパスを [Power-off script (パワーオフスクリプト)] フィールドに入力します。
 - デスクトップの作成、再構成、または更新の後にスクリプトを実行する場合は、親仮想マシン上のスクリプトのパスを [Post Synchronization script (同期後スクリプト)] フィールドに入力します。
 - Active Directory コンテナの相対識別名 (CN=Computers など) を入力します。
- 18 (オプション) この展開の構成設定の概要が表示されたら、[Back (戻る)] をクリックして前のページを変更できます。
- 19 [Finish (完了)] をクリックしてリンク クローン デスクトップ プールを展開します。
展開が開始された後、[Global desktop and pool view (デスクトップとプールのグローバルビュー)] ペインの [Desktops and Pools (デスクトップとプール)] または [Desktop Sources (デスクトップソース)] タブで、リンク クローン デスクトップ プールの進捗状況を監視できます。
展開が完了した後、「[ユーザーおよびグループにデスクトップとデスクトッププールに対する資格を付与する](#)」で説明されているように、ユーザーまたはグループにデスクトッププールを使用する資格を付与します。

ユーザーおよびグループにデスクトップとデスクトッププールに対する資格を付与する

デスクトップまたはデスクトッププールを作成した後、それにアクセスする資格を Active Directory のユーザーおよびグループに付与できます。

Active Directory ユーザーまたはグループにデスクトップへの資格を付与するには

- 1 View Administrator で、[Desktops and Pools (デスクトップとプール)] をクリックし、[Inventory (インベントリ)] タブをクリックします。
- 2 [Global desktop and pool view (デスクトップとプールのグローバルビュー)] ペインで、資格を付与するデスクトップまたはプールを選択し、[Entitlements (資格付与)] をクリックします。
このデスクトップまたはプールを使用できるユーザーおよびグループが一覧表示されます。
- 3 [Add (追加)] をクリックします。
ユーザーとグループの資格付与ダイアログボックスが表示されます。ドメインフォレスト内のすべての Active Directory ユーザーがここに表示され、ユーザーの検索や絞り込みを行うこともできます。
- 4 [Type (タイプ)] で、[User (ユーザー)] または [Group (グループ)]、あるいはその両方を選択します。
- 5 [Domain (ドメイン)] ドロップダウンメニューから、資格を付与するユーザーまたはグループが含まれるドメインを選択するか、または [Entire Directory (ディレクトリ全体)] を選択して Active Directory ドメインフォレスト全体を検索します。
名前または説明で検索することもできます。ドメイン内のすべてのユーザーのリストを表示する場合は、[Name (名前)] および [Description (説明)] フィールドは空白のままにします。
- 6 [Find (検索)] をクリックすると検索が実行されます。
- 7 表からこのデスクトップまたはプールの使用を許可するユーザーまたはグループを選択して、[OK] をクリックします。
資格を付与されたユーザーとグループの一覧表示に戻ります。追加したユーザーまたはグループが表示されています。
- 8 [OK] をクリックして終了します。

View Client をインストールして実行する

クライアント マシンで、View Client をインストールしてエンド ユーザーがデスクトップにリモート アクセスできるようにします。

注意 Offline Desktop 機能を使用する場合は、View Client with Offline Desktop をインストールしてください。Offline Desktop 機能を使用すると、ユーザーは仮想マシンをダウンロードしてローカル システムで使用できます。

Offline Desktop は試験的な機能です。Offline Desktop は vSphere 4 ではサポートされていません。

View Client をインストールするには

- 1 クライアントをホストするシステムで、View Client 実行可能プログラムを実行します。xxxxxx はファイルのビルド番号です。

VMware-viewclient-xxxxxx.exe

- 2 VMware インストール ウィザードが表示されたら、[Next (次へ)] をクリックします。
 - 3 VMware のライセンス条件に同意して、[Next (次へ)] をクリックします。
 - 4 カスタム セットアップのオプションを選択します。
 - ユーザーがデスクトップを介してローカル接続の USB デバイスにアクセスできないようにする場合は、[USB Redirection (USB リダイレクト)] コンポーネントの選択を解除します。
 - View Connection Server にログインし、再度 View デスクトップにアクセスするときに ID および認証情報を入力するようすべてのユーザーに要求する場合は、[Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン)] コンポーネントの選択を解除します。
 - 5 [Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン)] コンポーネントを選択した場合は、さらにユーザーが View Client を使用してログインした場合のデフォルトの動作を構成できます。
 - [Show in connection dialog (接続ダイアログに表示)] を選択して、[Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン)] チェック ボックスを View Client の接続ダイアログ ボックスに表示します。
このチェック ボックスを選択すると、ユーザーがクライアント システムへのログイン時に入力した ID および認証情報が View Connection Server インスタンスに渡され、最終的には View デスクトップに渡されます。
 - View Client の接続ダイアログ ボックスで [Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン)] チェック ボックスがデフォルトで選択されるようにするには、[Set default option to login as current user (デフォルトのオプションを現在のユーザーとしてログインに設定します)] を選択します。
- [Next (次へ)] をクリックします。
- 6 インストール先フォルダを受け入れるか、変更して、[Next (次へ)] をクリックします。
 - 7 (オプション) クライアントの接続先のサーバの FQDN または IP アドレスを入力して、[Next (次へ)] をクリックします。
 - 8 View Client のショートカットを構成してから、[Next (次へ)] をクリックします。
 - 9 インストールの完了後に View Client を起動する場合は、チェックボックスを選択します。
 - 10 [Install (インストール)] - [Finish (完了)] をクリックします。

View Client を起動するには

- 1 インストール後に View Client が自動的に起動しない場合は、デスクトップショートカットをダブルクリックするか、[Start (スタート)] - [Programs (プログラム)] - [VMware] - [VMware View Client] をクリックします。
- 2 [Connection Server (コネクション サーバ)] ドロップダウン メニューで、View Connection Server のホスト名または IP アドレスを入力します。

- 3 (オプション) [Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン)] チェック ボックスが表示されている場合は、このチェック ボックスを選択すると、このシステムにログインしたときに指定した認証情報を使用して View Connection Server および View デスクトップにログインできます。

[Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン)] を選択しない場合は、View デスクトップにアクセスできるようになるまでに何回も認証情報を入力してログインする必要があります。

[Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン)] を選択し、View Connection Server にログインする権限がある場合は、[手順 5](#) のログイン認証情報の入力を要求されません。

- 4 [Connect (接続)] をクリックします。
- 5 資格を付与されたユーザーの認証情報を入力し、ドメインを選択して [Login (ログイン)] をクリックします。

ユーザー名を `user@domain` として入力した場合は、アットマーク (@) の存在によりこの名前がユーザー プリンシパル名 (UPN) として扱われるため、ドメインのドロップダウンメニューが淡色表示になります。

- 6 表示されたリストからデスクトップを選択して [Connect (接続)] をクリックします。

View Client から指定されたデスクトップへの接続が開始されます。

接続が確立されると、クライアント ウィンドウが表示されます。

(オプション) 次の手順

ポリシーを使用すると、情報のログ取得の制御、クライアント アクセスの管理、デバイス使用の制限、クライアントが使用するためのセキュリティ パラメータの確立などを行うことによって、View コンポーネントを構成できます。詳細については、『View Manager 管理ガイド』のコンポーネント ポリシーに関する章を参照してください。

View Administrator の [Events (イベント)] ビューを使用して、View Connection Server 内で行われるアクションによって生成されるイベントを調べることができます。[Contains (含む)] フィールドにテキストを入力し、メッセージの種類、メッセージの時間、またはメッセージ テキストそのもので検索できます。また、メッセージを表示する日数も決定できます。詳細については、『View Manager 管理ガイド』の View Administrator に関する章を参照してください。

View コンポーネント リファレンス

View を構成する主要コンポーネントは次のとおりです。

- **View Connection Server** クライアント接続のブローカーとして機能するソフトウェア サービス。受信したりリモート デスクトップユーザーの要求を、認証したり、適切な仮想デスクトップ、物理デスクトップ、またはターミナルサーバにダイレクトしたりします。

レプリカ サーバは、高可用性およびロード バランシングを実現する追加の View Connection Server インスタンスです。レプリカ サーバがインストールされると、ローカルの LDAP インスタンスも作成され、既存の View Connection Server からレプリカ サーバ上の View LDAP データが初期化されます。

セキュリティ サーバを非武装地帯 (DMZ) にインストールすると、ネットワーク保護のレイヤを追加できます。セキュリティ サーバは、単一のアクセス ポイントを提供することで、認証されたユーザーだけが、外部の場所から内部ネットワークに接続できるようにします。

- **View Administrator** View Manager の管理者は、この Web アプリケーションを使った View Connection Server の設定、デスクトップの展開と管理、ユーザー認証の制御、システム イベントの開始と調査、および分析作業の実行が可能です。
- **View Composer** vCenter Server システム上にインストールされるソフトウェア サービス。これによって View Manager は、中央で管理される 1 つの基本イメージから複数のリンク クローン デスクトップをすばやく展開できます。
- **View Agent** すべてのゲスト仮想マシン、物理システム、またはターミナル サーバにインストールし、それらを View Manager で管理できるようにするためのソフトウェア サービス。

- **View Client** ローカルにインストールされ、View Connection Server と通信を行うソフトウェア アプリケーション。これによってユーザーは自分のデスクトップに接続できます。
- **View Client with Offline Desktop** (試験的) ユーザーが仮想マシンをダウンロードしてそれらをローカルシステムで使用できるようにする Offline Desktop 機能に対応した、View Client の拡張バージョン。
- **View Portal** 複数のオペレーティング システムおよびブラウザでサポートされる、View Client の Web ベースバージョン。

本書に関するコメントがございましたら、以下のアドレスにご連絡ください。 docfeedback@vmware.com

VMware, Inc. 3401 Hillview Ave., Palo Alto, CA 94304 www.vmware.com

ヴェイムウェア株式会社 テ 105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5 浜松町スクエア 13F TEL: 03-4334-5600 FAX: 03-4334-5601 www.vmware.com/jp

Copyright © 2009 VMware, Inc. All rights reserved. 本製品は、米国著作権法および米国知的財産法ならびに国際著作権法および国際知的財産法によって保護されています。VMware 製品には、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> に列記されている 1 つ以上の特許が適用されます。VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの会社の商標です。

アイテム: JPN-000276-00
